ほっと通信　令和7年6月号

生活の中の仏教語

ぐ せ い　　　し ぐ せ い が ん も ん

弘誓、四弘誓願文

JA ほっと通信編集委員　高橋悦堂

仏教には、修行者である菩薩が自らの悟りと衆生の救済を願って立てる広大な誓願である「弘誓(ぐせい)」というものがあります。特に「自分自身のことよりも先に他者を救おうとする菩薩の誓い」であることが、この弘誓の大切なポイントでしょう。

菩薩とは、仏様とその教え、他の菩薩たちを敬い信じ生きる人すべてを指すと私は考えています。観音さまやお地蔵さま、私のような僧侶や檀信徒さんたち、さらには仏の教えを心の支えや生きる指針としている方々(今この文章を読んでいるあなた)もみな菩薩といえるでしょう。

弘誓は菩薩である私たち自身が主体となり、他者の幸福を願って誓いを立てるものなのです。

*「誓願(せいがん)」とは、神様や仏さまに自ら誓いを立てて、物事が成就するように願うことです。

曹洞宗では『四弘誓願文』(しぐせいがんもん)という弘誓があります。

『四弘誓願文』

◎ 衆生無辺誓願度　煩悩無尽誓願断　法門無量誓願学　仏道無上誓願成

○ 衆生無辺誓願度(しゅじょうむへんせいがんど)

＜衆生は無辺なれど、誓って度せんことを願う。＞

私たちは皆迷い苦しみながら生きていますが、皆を救い悟りの境地に渡すことを誓い願います。

○ 煩悩無尽誓願断(ぼんのうむじんせいがんだん)

＜煩悩は無尽なれど、誓って断ぜんことを願う。＞

私たちには尽きないほど多くの煩悩がありますが、それを断ちきることを誓い願います。

○ 法門無量誓願学(ほうもんむりょうせいがんがく)

＜法門は無量なれど、誓って学ばんことを願う。＞
仏の教えは計り知れないほどありますが、それを学び実践することを誓い願います。

○　仏道無上誓願成（ぶつどうむじょうせいがんじょう）

＜仏道は無上なれど、誓って成ぜんことを願う。＞
仏の道はこの上ないほど尊いものですが、その道を歩み成就することを誓い願います。

『四弘誓願文』は「衆生無辺誓願度」から始まりその後の３つの弘誓につながっていくことからも、仏道を歩みながら自分以上に他者を大事にしていくことを何よりの誓いとしているのが分かると思います。

そして、この弘誓をたてる相手は数多（あまた）の仏さまたちです。私たちはともすれば「自分が頑張って支えてあげたから相手が幸せになれたんだ」というような慢心の気持ちが起きやすいものです。立派な弘誓もこうなってはただの煩悩です。誓願をたてる先に清く尊い仏さまを頼み己を振りかえりながら努力をすることで、傲慢になりやすい心をおさめるのです。

『四弘誓願文』は日々のお勤めの後などにお唱えします。日々日々、自身の弘誓を仏様とともに見つめなおしているのです。

神仏に見守ってもらいながら、私たち自身が他者を支える菩薩となること、それが「弘誓」なのです。

（１１０２字）（栗原市　曹洞宗　普門寺副住職　曹洞宗布教師）